オホーツク海には、シベリアの大河アムール川から流れ込む大量の淡水が海面に広がります。そしてここに冬の強い風が吹きぬけると、海面が凍り、それが流氷となります。流氷には多くの植物プランクトンが含まれ、これらは氷がとける春になると急激に増え、動物プランクトンのよいエサになります。すると、動物プランクトンを目当てに多くの魚が集まります。こうして流氷は豊かな北の海の生き物を育みます。
ここでは豊かなオホーツク海にすむいろいろな生き物を紹介しています。

(3) 岩陰にすむ魚

岩場ではオオカミウオやナメダンゴなどを見ることができます。オオカミウオの口には数本の犬歯があり、恐ろしい顔つきをしていますが、実際はさほど強暴ではなく、むしろ水槽を覗きこむと水面まで上がってくるような、人なつこい一面もあります。アイヌ語ではチップカムイ(神の魚)と呼ばれます。

ナメダンゴは、名前の通りの団子のような体にたくさんのこぶがついています。泳ぎはあまり得意ではなく、腹ビレが変形した吸盤で岩に吸い付いてじっとしています。

▲クマガイウオ

▲オオカミウオ

▲ナメダンゴ

(4) 藻場にすむ魚

藻場ではホッカイエビやイソバテングを見ることができます。ホッカイエビは海草の色などに合わせて鮮やかな緑色になります。このエビは雌雄同体で、オスからメスに性転換するため、体の大きいものは全てメスです。

イソバテングは胸ビレや背ビレが大きく目立ちます。若魚は藻場などでよく見られますが、成魚になるとやや深い場所に移動します。

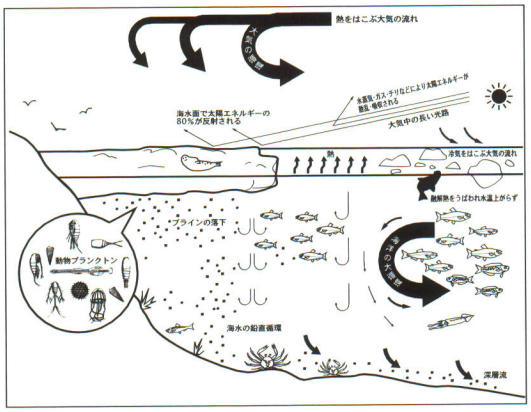
▲ホッカイエビ

▲イソバテング

(5) 流氷の役割

海水が凍ったものを海氷といい、流氷は海氷の一種です。海氷ができる北の海では、塩分が濃縮されたブラインと呼ばれる海水が深い海底に沈み、代わりに栄養塩の多い、底層の海水が上昇します。

栄養塩の豊富な海水中では、流氷に含まれるアイスアルジーという植物プランクトンが春に繁殖し、それらは動物プランクトンのエサとなります。さらにここには、動物プランクトンをエサとする魚類や海獣類などが集まり、流氷は北の海を豊かにする原動力となっています。



▲オホーツクの循環